

I-3

ハンドヒーリングで改善を認めた脳卒中後遺症の5例と 汎発型円形脱毛症の1例

○豊田 美都¹⁾，後藤 牧子¹⁾

1) 太陽の丘クリニック

【背景】

脳卒中後遺症は、一般的に脳卒中発症から半年が経過すると症状固定とされ、リハビリを行っても現状維持、或は徐々に衰えてしまい、介護が必要となることも多い。日本では寝たきりの原因の第1位（約4割）を占め、社会的な問題にもなっている。

円形脱毛症の中で汎発型は頭部のみならず体毛も脱毛し、円形脱毛症の10%を占め、局所免疫療法、ステロイド局所注射・内服、紫外線治療などの治療法があるものの非常に治療抵抗性である。

今回、ハンドヒーリングによる脳卒中後遺症と汎発型脱毛症の改善例を経験したので報告する。

【方法・結果】

脳卒中後遺症：発症から半年以上が経過し、症状固定の診断を受けた脳卒中後遺症患者5名（脳梗塞2名・脳出血3名）に対し、1ヶ月（週1回、計4回）のハンドヒーリング治療を行い、治療前後および1か月の調査前後で評価を行った。1か月間の治療により、5人全員で10m歩行速度、Timed up & go test (TUG)、麻痺側運動機能評価であるSIAS-Mの改善がみられた。QOLの評価であるSF-36では全ての項目で改善が認められた。さらに脳卒中感情障害スケール（情動障害）、気分プロフィール検査(POMS)の活力の項目、VAS満足度のスケールで有意な改善が認められた。

汎発型脱毛症：36歳、女性。6歳時より頭髪の脱毛が出現、以後急速に拡大し、全身の脱毛をきたした。その後皮膚科に通院、さらに漢方や民間療法を試すも28歳まで発毛は認められなかった。2007年7月から現在まで週1回のハンドヒーリングの治療を継続している。2年後に眉毛、睫毛が生え、治療開始4年後より頭部に産毛の発毛が認められ、以後順調に発毛している。

【結論】

ハンドヒーリングは副作用が一切ない治療法であり、今回の結果から、脳卒中後遺症や難治性の脱毛症において有効である可能性が示唆された。